

# こども新聞 週刊がほピョンプレス

毎週日曜発行

2025 4/6

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



## みんな 子ども だった!?

59

きょうのテーマ

仙台市太白区の手代木直美さん(44)は、サッカーの元国際審判員です。昨年夏のパリ五輪をはじめ、五輪と女子ワールドカップ(W杯)合わせて計6回出場し、副審を務めました。公正で冷静な判断とタフさが求められる厳しい世界で活躍した手代木さんは、どんな子どもだったのかな。

(8面に関連記事)

◇引っ込み思案で、外では母の後ろに隠れてくっついていようような子ども

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

# 内気だけどスポーツ好き

でも体を動かすのは大好きでした。バレエボール、陸上、テニス、水泳といろんなスポーツを経験しました。特にスピー



でした。その当時を知る人は、今の私を見て驚くほどです。

サッカーは小学4年から。一つ上の兄を追いかけ始めました。真剣に取り組むため、女子サッカー部がある高校に進学しました。

ドスケートは、小学生から中学3年生まで続けました。練習すれば記録が伸び、努力は大事だと学びました。

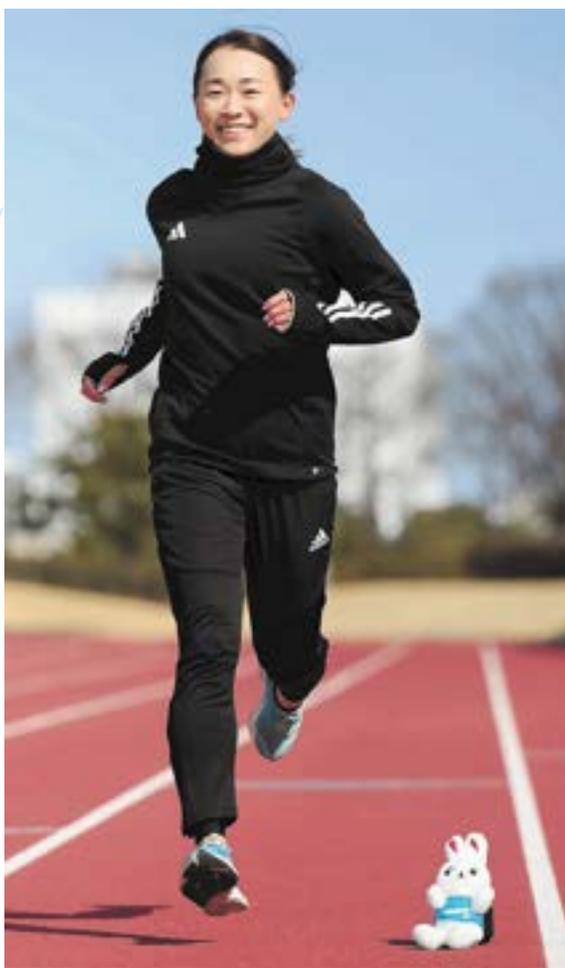
卒業後に理学療法士の道に進んでからも、休みを取って研修や審判経験を積みました。20

2年生のある日、国際サッカー連盟の副審でもあった顧問の山崎裕彦先生に呼ばれ、1枚の新聞記事を見せられました。見出しは「女子1級審判員誕生」でした。「走るのも速いし、持久力もある。やってみないか」と勧められました。「はい」と即答し、審判資格を取りました。

小さいころはスポーツをやっていたとはいえない狭い世界で、人と接する機会が少なかった。でも審判として全国あちこちを回るうちに、引っ込み思案の性格が変わりました。今や世界中に友だちがいます。

「女のくせに」「女だから」という言葉は、何度とも言われました。聞き飽きたくらい。小学生のとき、それで所属したサッカースポーツ少年団を離れたこともあり。そういう見方は今もついて回りますが、能力を磨けば関係ない。もはや何とも思いません。試合が終わったときに「女性だったんだ」と気付かれるくらいがいいですね。

いろんなことにチャレンジする気持ちを持ってください。やりたいことを続けてほしいです。



手代木 直美さん(44歳・元サッカー国際副審)

てしろぎ・なおみ 1980年北海道清水町生まれ。帯広南商高、佛教大通信教育学部卒。2023年のサッカー女子W杯で日本人で初めて開幕戦を担当した。



06年に女子1級に合格し、13年に国際審判員となりました。常に山崎先生が気にかけて、サポートしてくれました。

### この日 何の日

◇8日(火) ホヤの日  
生産量日本一を誇る宮城のホヤをPRしようと、仙台市の飲食業者が2018年に制定しました。ホヤは「海のパイナップル」とも呼ばれ、ミネラルが豊富です。日付は「4(フォー)8(ヤ)」の語呂合わせから。

### きょうの紙面

- 2面 楽しく作ろう
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 多くの国際試合ジャッジ